

① 申請者	大分県 (◎豊後高田市・国東市)	② タイプ	地域型 / シリアル型 A B C D E
③ タイトル			
鬼が仏になった里「くにさき」			
④ ストーリーの概要 (239字)			
<p>「くにさき」の寺には鬼がいる。一般に恐ろしいものの象徴である鬼だが、「くにさき」の鬼は人々に幸せを届けてくれる。</p> <p>おどろおどろしい岩峰の洞穴に棲む「鬼」は不思議な法力を持つとされ、鬼に憧れる僧侶達によって「仏 (不動明王)」と重ねられていった。「くにさき」の岩峰につくられた寺院や岩屋を巡れば、様々な表情の鬼面や優しい不動明王と出会え、「くにさき」の鬼に祈る文化を体感できる。</p> <p>修正鬼会<small>しゅじょうおにえ</small>の晩、共に笑い、踊り、酒を酌み交わす——。「くにさき」では、人と鬼とが長年の友のように繋がる。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-start;"> <div style="text-align: center;">               岩峰の洞穴は鬼の棲み家         </div> <div style="text-align: center;"> <p>「くにさき」では 鬼は仏となって現れる・・・</p> </div> <div style="text-align: center;">               岩峰につくられた古の修行場         </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-start; margin-top: 10px;"> <div style="text-align: center;">               鬼と酒を酌み交わす         </div> <div style="text-align: center;">               「鬼」         </div> <div style="text-align: center;">               「不動明王」         </div> <div style="text-align: center;">               優しい顔の不動明王         </div> </div> <div style="text-align: center; margin-top: 10px;">               「くにさき」の表情豊かな鬼の面         </div>			
⑤ 担当者連絡先			
担当者氏名	豊後高田市教育委員会 文化財室 主事 松本卓也		
電 話	0978-53-5112	FAX	0978-53-4731
E-mail	<a href="mailto:t-matsumoto@city.bungotakada.lg.jp">t-matsumoto@city.bungotakada.lg.jp</a>		
住 所	大分県豊後高田市中真玉 2144 番地 12 豊後高田市教育委員会 文化財室		





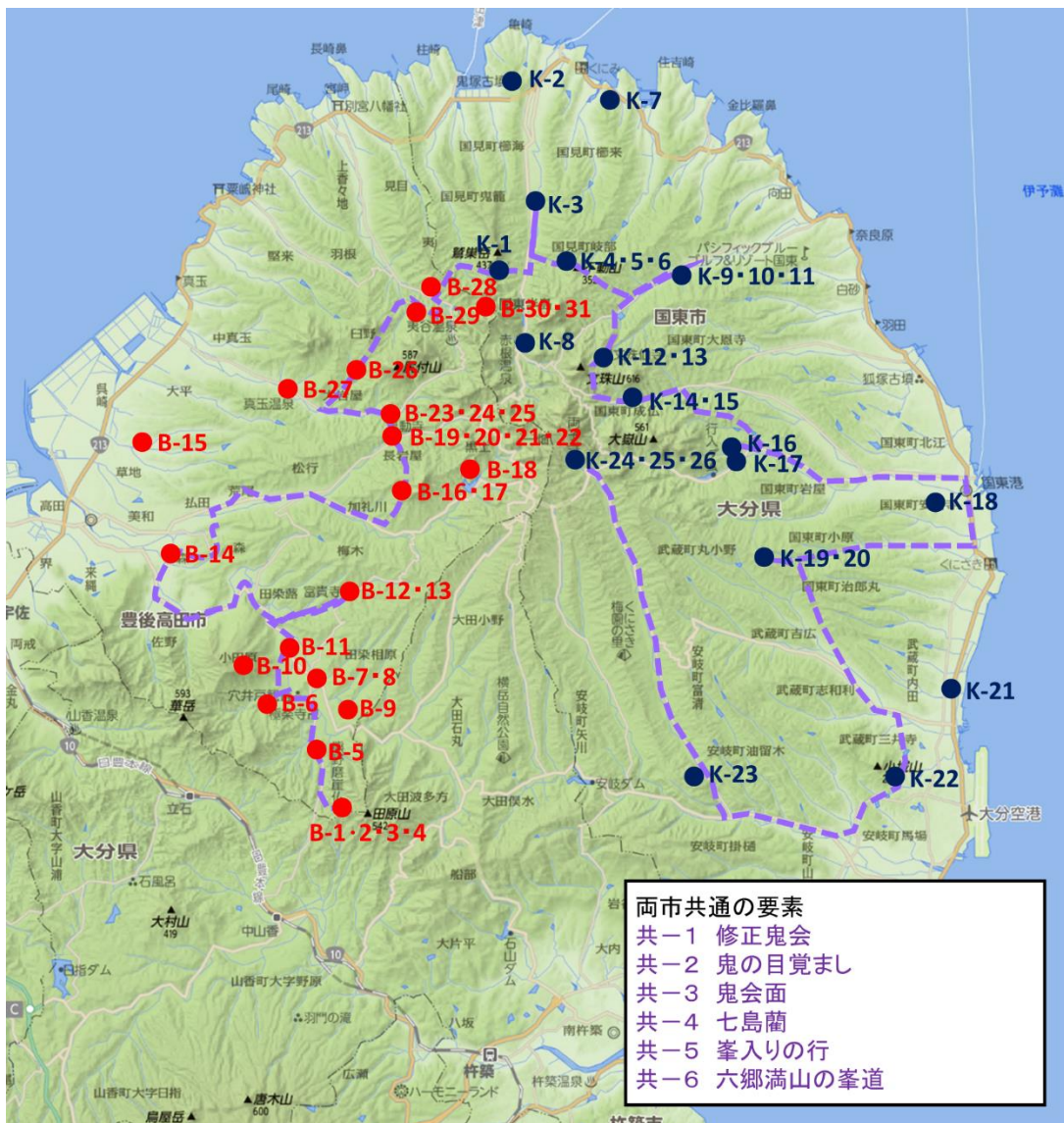
市町村の位置図（大分県）



国東半島の地形（航空写真）

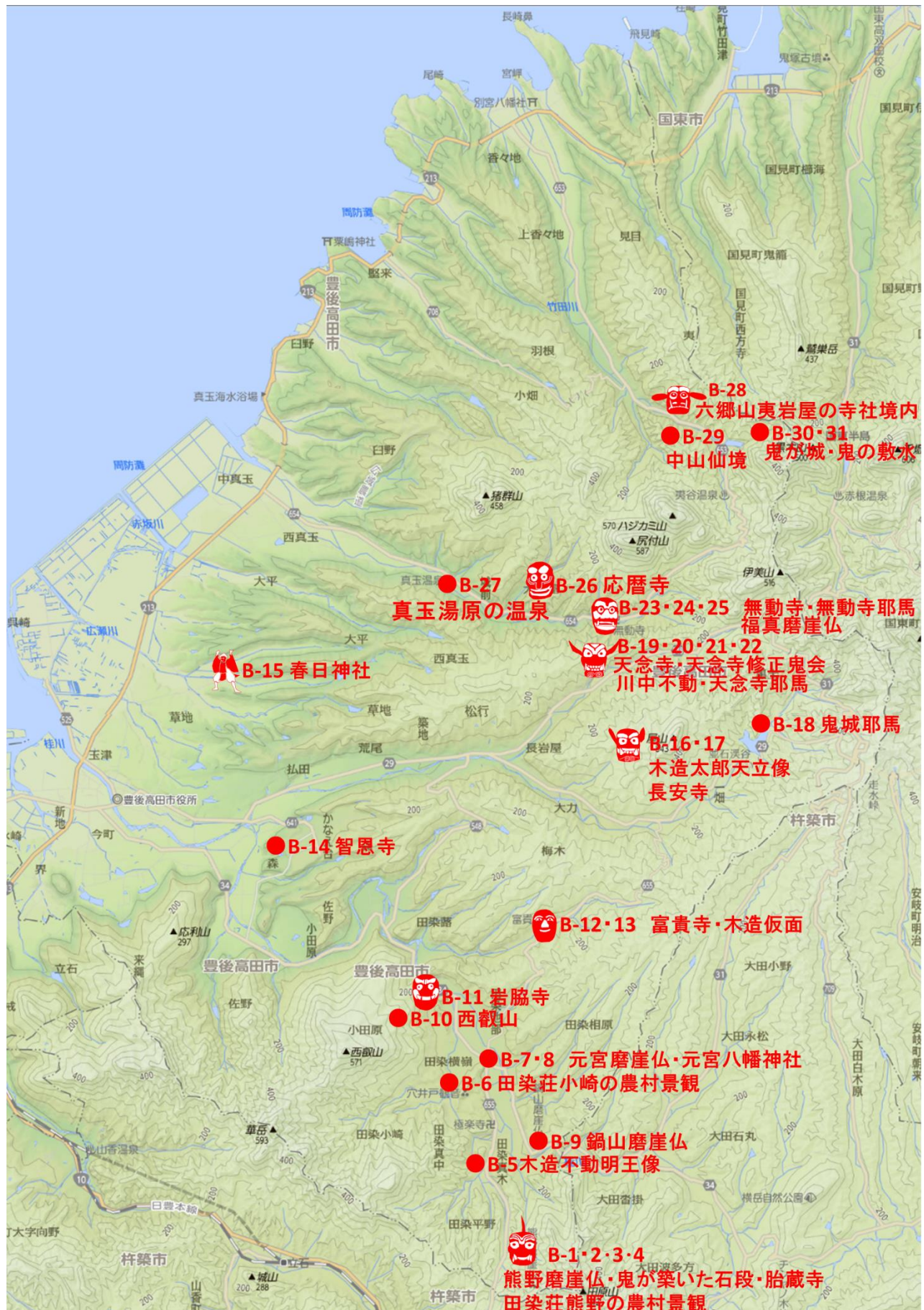


構成文化財の位置図（全域）





構成文化財の位置図（豊後高田市）





構成文化財の位置図(国東市)





## ストーリー

## ○「くにさき」の奇岩霊窟に棲んだ鬼達

ヤマトタケルの父・景行天皇は、熊襲征伐のために周防灘を渡る時、九州の東に張り出す「くにさき」を発見した。瀬戸内海を渡るヤマトの人々にとって、「くにさき」は異界との境界であり、“最果ての地”の象徴であった。幾重にも連なる奇怪な山塊には、霧や瘴気がたちこめ、どこか不気味で、「鬼」でも出そうな雰囲気醸し出している。いや、この「くにさき」には、実際に鬼が棲んでいた――。

円形の半島「くにさき」に放射線状に広がる岩峰では、ぽっかりとあいた洞穴を見ることがある。しかも、到底人間が踏み入れられないだろう高い場所にある。そこには途轍もない力を持つ恐ろしい鬼が棲んでいた。かつての「くにさき」は鬼達の棲む異界「大魔所」であった。「くにさき」には、腕力で大岩を割り、割った石を積んで一夜で石段を造ったなど、鬼にまつわる伝説が多く残されている。



鬼が棲む奇岩霊窟



鬼が築いた石段→

## ○「くにさき」では、人と鬼とは長年の友

「くにさき」には、鬼に出会える夜がある。「くにさき」最大の法会「修正鬼会」である。

鬼は松明を持って暴れまわり、火の粉が舞って、咽るような煙が充満する。服や髪に火が付けばちょっとしたパニック状態に陥るし、松明で尻を打たれる「御加持」もかなり手荒であるが、寺の講堂には悲鳴よりも笑い声の方がよく響いている。

それは、火の粉を浴び、御加持を受ければ、「五穀豊穰」「無病息災」等の幸せが叶えられるとされるからだ。「くにさき」の鬼はその法力を使って災厄を払う良い鬼として、人々から厚く信仰されているのである。鬼へのお供えは「飾り餅」「大鏡」などの餅が多い。長い仏事の合間には唐辛子のきいた「鬼の目覚まし」が僧侶達に出され、最後に大きな丸餅「鬼の目」が縁起物として撒かれ、人々は福を分け合う。毎年、修正鬼会によって「鬼の幸」とでも言うべき「くにさき」の産物の豊穰も約束される。

岩戸寺・成仏寺では、講堂での所作が終わると、鬼達は集落へと繰り出す。人々はこぞって鬼を自宅に招いてもてなし、鬼と酒を酌み交わす。「知らぬ仏より、馴染みの鬼」とはよく言ったもので、人々は年に1度の鬼と語らせるこの夜をこの上なく心待ちにしている。

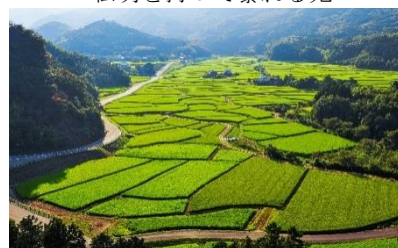
節分のように鬼を払って幸福を得る祭りや、鬼に子どもを脅してもらい良い子にさせる風習は各地で見られるが、「くにさき」の鬼はそれ自体が幸せを運ぶ頼もしい存在である。

## ○鬼に祈る「くにさき」の僧侶達

鬼と人との深い友情の立役者となっているのが僧侶達である。



松明を持って暴れる鬼



豊かな「くにさき」の里（田染荘）



鬼と酒を酌み交わす



鬼と人は長年の友



鬼は古来より不思議な法力を持つ存在として、僧侶達の憧れの存在であった。古代仏教の僧侶達は、鬼の姿を探して「くにさき」の岩峰をよじ登り、鬼の棲む洞穴を削って「岩屋」と呼ばれる修行場を作り出し、岩屋を巡る「峯入り」を創始した。堂や社がなくても、霊窟の神仏に自然に手を合わせる、そんな仏教文化が「くにさき」では千年の歴史を持っている。岩屋の多くは「奥ノ院」と呼ばれて、いまでも各寺院の信仰のはじまりと位置づけられている。



岩屋を巡る僧侶達（峯入り）

やがて「くにさき」の6つの郷には、最大65ヶ所の寺院が開かれ、「六郷満山」と呼ばれる仏の世界が創られた。そして、六郷満山の殆どの寺では鬼会面が作られ、僧侶が扮する鬼は国家安泰から雨乞いまで様々な願いを叶えてきた。こうして、「くにさき」には鬼に祈る文化が花開いた。現在、修正鬼会が行われなくなった各寺でも、鬼会面の供養を修正鬼会が行われた日取りで脈々と受け継いでいる。



岩窟の寺院「五辻岩屋」

鬼会面の表情はバリエーションに富み、すごんだ顔だけではない。鬼会面をじっと見つめていると、時には笑顔で、時には自慢げに、もしかしたら鬼のくせして目に涙を滲ませながら、里の昔話を聞かせてくれるかもしれない。



表情豊かな「くにさき」の鬼達

## ○「くにさき」の鬼と不動明王

平安時代、密教文化が「くにさき」に入ってくると、「くにさきの鬼」は「不動明王」と重ねられるようになる。

「くにさきの鬼」の姿を見てみると、不動明王との共通点が見られる。鬼の持ち物の1つである剣は、不動明王の宝剣と同じであり、煩惱を焼き尽くす不動明王の火焰光背は、災厄を払う鬼の松明の炎と通じている。そして何より、「くにさき」の不動明王の多くは、かつて鬼が棲んだ霊験あらたかな岩屋「奥ノ院」にまつられていた。



鬼と不動明王が持つ「宝剣」

一般に不動明王は静かに怒りの表情をたたえるが、「くにさき」では丸顔で優しい表情をした像が多い。

真木大堂や無動寺など、平安時代のやわらかな表現を用いた木造の不動明王たち、石造の熊野磨崖仏や川中不動も表情は優しく、目の前に立つと深い安心感を得ることができる。



優しい顔の不動明王（熊野磨崖仏）

そして、長安寺の太郎天は、子どもの姿をした「くにさき」の神の像であるが、内部の梵字から不動明王の化身であると知られている。不動明王をあえて柔和な顔の子どもの姿で表し、「神」と「仏」の両方の意味を持たせた、六郷満山の叡智の結集した姿をしている。

様々な姿の不動明王を通じて、「くにさき」の鬼に祈る文化の深さを知ることのできるのである。



不動明王の化身「太郎天」

「くにさき」では、怖い鬼でも仏となつて、人々の願いを叶えてくれる。鬼に憧れ、鬼と会い、鬼に祈り、鬼と笑う。そんな文化が残る「くにさき」で、あなたも鬼と友達になってみないか？

## ストーリーの構成文化財一覧表（豊後高田市）

番号	文化財の名称 (※1)	指定等の状況 (※2)	ストーリーの中の位置づけ (※3)	文化財の所在地 (※4)
B-1	まがいぶつ 熊野磨崖仏	国史跡 国重文	巨岩に浮き出るように彫られた磨崖仏。柔和な顔の不動明王は、見上げる人々に安心感をもたらす。	豊後高田市
B-2	鬼が築いた石段	未指定	熊野磨崖仏へと進む自然石の石段は、鬼が一夜にして築いたとされる。	豊後高田市
B-3	胎蔵寺 	県有形 (懸仏)	大きな鬼会面を持つ。かつては今熊野寺と呼ばれ、修験者を多く抱える修行の寺であった。	豊後高田市
B-4	田染荘熊野の農村景観	未指定	熊野磨崖仏を厚く信仰する集落。対面には大穴のあいた岩があり、そこに棲む鬼が石段を築いたという伝承が伝わる。	豊後高田市
B-5	木造不動明王立像 (真木大堂)	国重文	一木造の像としては国内最大級の不動明王。平安後期の丸みの多い像容で、見上げると優しい顔立ちに見える。	豊後高田市
B-6	田染荘小崎の農村景観 (夕日岩屋・穴井戸観音)	国重文景	岩峰上の修行場・夕日岩屋から荘園の景観が一望できる。また、その麓の穴井戸には鬼が封じ込められた伝承がある。	豊後高田市
B-7	元宮磨崖仏	国史跡	中央の不動明王は穏やかな表情をしており、鎮守・元宮八幡神社脇で人々を優しく見守る存在である。	豊後高田市
B-8	元宮八幡神社	未指定 (遺跡)	拝殿の大絵馬には、雨乞い「川勧請」の様子が描かれるが、その行列を先導したのは鬼であったと伝わる。	豊後高田市
B-9	鍋山磨崖仏	国史跡	丸顔で優しい不動明王は、村人にとっては古代からの水源鍋山イゼを見守る存在でもある。	豊後高田市
B-10	西叡山	未指定	古代の頃の六郷満山の筆頭寺院。高山寺という寺院からの眺望は西国東の峯々を一望できる。	豊後高田市
B-11	いわきじ 岩脇寺 	未指定	耶馬上に細い峯道が形成されており、磨崖仏は集落を見下ろす位置にある。江戸前期の鬼会面が大切に保管される。	豊後高田市
B-12	ふきじ 富貴寺	国宝 国重文 (壁画・仏像) 国史跡	大堂は内部に極楽浄土を再現した六郷満山の仏の世界を象徴する建築。奥ノ院の岩屋が残される。	豊後高田市
B-13	木造仮面 (御修正会面) 	県有形	国東半島最古の面。久安3年(1147)の銘がある。修正鬼会で鬼を呼び出す「鈴鬼」の源流にあたるとされている。	豊後高田市
B-14	智恩寺	県有形 (国東塔) 市史跡	昭和中期まで修正鬼会を執り行っていた講堂が残っている。現在も修正会として仏事を実施する。	豊後高田市
B-15	春日神社 	国登録有形 市有形 (潮汲絵巻)	草地地区の雨乞い「潮汲み」の行列を鬼が先導する様子が描かれる。	豊後高田市
B-16	木造太郎天立像	国重文	六郷満山を象徴する像。不動明王の化身とされるが、子供の姿で表され、優しく修行僧を見守る神でもある。	豊後高田市
B-17	長安寺 	県史跡	西国東最高峰・屋山に開かれた寺院。中世・六郷満山文化の中心的な役割を果たしてきた。多数の鬼会面が飾られる。	豊後高田市



B-18	きしろ 鬼城耶馬	未指定	屋山後背に広がる岩峰群で、上部に いた大穴には鬼が棲んでいると言 えられることから「鬼城」と呼ば れる。	豊後高田市
B-19	天念寺 	国名勝 県史跡	中世には長岩屋と呼ばれた六郷満 山寺院で、横に長い岩屋の中に堂 宇が並ぶ。講堂は修正鬼会の舞 台でもある。	豊後高田市
B-20	しゅじょうおにえ 天念寺修正鬼会	国無民	修正鬼会は六郷満山最大の法会。 災払鬼・荒鬼が堂内で暴れるが、 農村では1年の無病息災・五穀豊 穡などを祈る新春の法会として大 切にされている。	豊後高田市
B-21	かわなかふどう 川中不動	国名勝 県史跡	川中の大岩に不動明王の磨崖仏が 彫られる。天念寺前方の長岩屋 川の洪水を鎮めるという信仰があ る。	豊後高田市
B-22	むみょうばし 天念寺耶馬・無明橋	国名勝	天念寺後背に屹立する耶馬には1 0の岩屋や峯道が残されている。 無明橋は心に邪があれば落ちてし まうとされる。	豊後高田市
B-23	無動寺 	国名勝 県有形 (仏像16軀)	中世には小岩屋と呼ばれた六郷満 山寺院で。本尊・不動明王は優し い表情をしており、「黒土不動尊」 と親しまれている。鬼面の供養を 今も行う。	豊後高田市
B-24	無動寺耶馬	国名勝	無動寺後背には巨大な岩壁が聳 え、中には霊場が開かれていた。 岩屋や無明橋がある。	豊後高田市
B-25	福真磨崖仏	県史跡	四王石屋と呼ばれた霊場の参道に 刻まれた磨崖仏。各像を守護する 優しい表情の不動明王像が彫ら れる。	豊後高田市
B-26	応暦寺 	県有形 (仏像) 県史跡 (磨崖仏)	中世には大岩屋と呼ばれた六郷満 山寺院。本尊・不動明王は、柔か な表情である。鬼面の供養を今も 行う。	豊後高田市
B-27	またまゆはら 真玉湯原の温泉	未指定	太郎天が湯浴みをするために、水 の神・地の神に頼んで湧き出させ たとされる、かつて行者達も憩っ ただろう温泉。	豊後高田市
B-28	えびす  六郷山夷岩屋の寺社境内	県史跡 県名勝	夷地区全域を境内とした六郷満山 寺院。大きな岩屋の中に六所神社 を構える。鬼面の供養を今も行う。	豊後高田市
B-29	中山仙境 (夷谷)	県名勝	かつて「大魔所」と呼ばれた岩峰 群を一望できる。尾根は修行場と なっており、岩屋・無明橋などが ある。	豊後高田市
B-30	鬼が城	未指定	鎌倉時代に、御番鍛冶にも数えら れた刀匠・紀新太夫行平が刀作す る姿を鬼神太夫と呼んだことから 一帯の岩場をそう名付けたとされ る。	豊後高田市
B-31	鬼の敷き水	未指定	夷に棲んだ鬼が敷いてきたとされ る水路。名水として知られる。	豊後高田市

ストーリーの構成文化財一覧表（国東市）

番号	文化財の名称 (※1)	指定等の状況 (※2)	ストーリーの中の位置づけ (※3)	文化財の所在地 (※4)
K-1	大不動岩屋	市史跡	切り立った耶馬の崖面にある岩屋。くにさきの鬼が出そうな岩峰群が眼前に広がる。	国東市
K-2	鬼塚古墳	国史跡	異界からくにさきへと来る船を描く壁画が残る。岩が露出しており、古来鬼が棲むと言われていた古墳。	国東市
K-3	せんとうじ 千燈寺 	県有民 (鬼会面)	修正鬼会で使われたことが分かる最古の鬼会面が残されている。	国東市
K-4	もとせんとうじ 旧千燈寺	県史跡	仁聞入寂の寺とされており、廃寺になった今もその趣を残す。霊場の大きさは六郷満山随一である。	国東市
K-5	旧千燈寺・五輪塔群	県史跡	999基の五輪塔は、坊集落の人々の霊を慰めるもので、寺院と集落の長い交流の縮図を見ることが出来る。	国東市
K-6	ごっじ 五辻不動	県史跡	耶馬上につくられた仁聞ゆかりの行場。眼下にも耶馬の岩柱が広がり、鬼が棲むような世界を体現する。	国東市
K-7	ケベス祭り 	国選択無民	岩倉八幡社で行われる奇祭。ケベスは異界から訪れた鬼の一種で、火の粉を浴びた人々には幸福が訪れる。	国東市
k-8	赤根温泉	未指定	峯道中で最も険しい耶馬の連続を越える途中にある温泉で、行者達も立ち寄ったとされる。	国東市
K-9	岩戸寺 	県史跡	蒙古軍の魁将の首塚を石で封じたことから立石山岩戸寺という。講堂は修正鬼会の舞台でもある。	国東市
K-10	岩戸寺修正鬼会	国無民	修正鬼会は六郷満山最大の法会。元々は蒙古軍の魁将の霊を鎮める目的があったが、江戸時代には集落を巡って農村の幸福を願うようになった。	国東市
K-11	岩戸集落の鬼の膳	未指定	岩戸寺修正鬼会で、各家を巡る鬼に出される膳。煮物・吸物・巻寿司・イギス（煮溶かしたオゴ（海草の一種）を固める郷土料理）などを供する。	国東市
K-12	文殊仙寺 	県史跡	岩峰に囲まれた六郷満山寺院。現在も鬼面の供養を行っている。	国東市
K-13	木造鬼大師像	市指定 (有形)	天台僧・良源が鬼に扮して民衆の疫病を払った伝説を木像にしたもの。鬼に対する憧れの強さを象徴する。	国東市
K-14	成仏寺 	未指定	龍が棲んでいたという岩屋にできたことから龍下山成仏寺という。本堂や岩屋は修正鬼会の舞台である。	国東市
K-15	成仏寺修正鬼会	国無民	修正鬼会は六郷満山最大の法会。成仏寺では3体の鬼（荒鬼・鎮鬼・災払鬼）が作られ、岩戸寺と同じく寺での修法を経て集落を巡る。	国東市
k-16	神宮寺 	県有形（法具） 市有形（焼仏）	天台宗の密教法具が今も残る。現在も鬼面の供養を行う。	国東市
K-17	行入寺 	県有形 (仏像)	本尊・不動明王像は対面の岩峰「千の岩」の岩屋に旧在したもの。現在も鬼面の供養を行う。	国東市



K-18	飯塚遺跡出土木簡	県有形 (考古資料)	奈良時代の木簡に「鬼 急急如律令」と書かれたものがあり、古代から国東で鬼の力が信仰された事を示す。	国東市
K-19	丸小野寺 	未指定	修正鬼会で使用していた講堂が残されている。	国東市
K-20	丸小野寺 子供鬼会 	市無民	国東半島の集落では、各地区の修正鬼会を子供に真似させる「子供修正鬼会」を創始した。	国東市
K-21	萱島酒造	国登録有形	国東半島の豊かな実りから作られる日本酒は、修正鬼会の鬼をもてなす時に欠かせない。	国東市
K-22	宝命寺 	県有形 (国東塔)	峯入りの際に足を掛けて法螺貝を吹く「入峯岩」が残されている。	国東市
K-23	るりこうじ 瑠璃光寺 	県有形 (仏像)	中世には杉山と呼ばれた六郷満山寺院。現在も鬼面の供養を行う。	国東市
K-24	ふたごじ 両子寺 	県史跡 県有形 (国東塔・仏像)	江戸時代には六郷山の総持院として全山の中心となった寺院。現在でも鬼面の供養を行う。	国東市
K-25	鬼橋	未指定	両子寺には鬼と呼ばれた大変力持ちの千徳坊という僧がおり、大岩を持ってきて橋を渡したという。	国東市
K-26	鬼の背割り	未指定	両子寺で鬼と呼ばれた千徳坊という僧が、岩壁を背中で割って進めるようにしたという。	国東市

## ストーリーの構成文化財一覧表（2市共通）

番号	文化財の名称 (※1)	指定等の状況 (※2)	ストーリーの中の位置づけ (※3)	文化財の所在地 (※4)
共-1	しゅじょうおにえ 修正鬼会	国無民	国東半島最大の法会。恐ろしい姿をした鬼は、神・仏・人の親しみのある交流によって、集落に幸福を運ぶ存在へと変化した。	豊後高田市 国東市
共-2	鬼の目覚まし (こしょう餅)	未指定	修正鬼会で僧侶達の眠気覚ましに振舞われる。「こしょう」は大分の方言で「唐辛子」のことであり、味噌とたっぷりの唐辛子を塗った焼餅である。	豊後高田市 国東市
共-3	鬼会面	未指定	各寺院に残る修正鬼会の面。国東半島に約100面残っており、神・仏・人の親しみのある交流の歴史を表情豊かに語ってくれる存在。	豊後高田市 国東市
共-4	しつとうい 七島蘭	未指定	現在では、くにさきでのみ生産されている七島蘭は鬼会面と括り付ける紐や、鬼の履く草鞋にも使われている。	豊後高田市 国東市
共-5	みね 峯入りの行	未指定	延べ6日かけて150kmの行程を踏破する日本最古かつ最大級の集団峯入り。修行僧たちの来訪は、各集落に加持と幸福をもたらすようになった。	豊後高田市 国東市
共-6	みね 六郷満山の峯道	未指定	六郷満山の霊場同士を結ぶ峯道。多くの行の場では、六郷満山の僧侶達の修行の足跡が残る。	豊後高田市 国東市



B-1 熊野磨崖仏



人々を見下ろす不動明王は、柔和な表情をしている。



B-2 鬼が築いた石段



B-3 胎蔵寺



荒鬼



荒鬼

鬼が棲む洞穴

B-4 田染荘熊野の農村景観



集落の対面に見える  
洞穴の鬼が  
石段を築いたとされる



B-5 木造不動明王立像



B-6 田染荘小崎の農村景観



夕日岩屋



穴井戸観音の鬼を封じ込めた跡



B-7 元宮磨崖仏



B-8 元宮八幡神社



(様式3-2)

鬼が先導した  
雨乞い「川勧請」  
を描いた大絵馬



B-9 鍋山磨崖仏



B-10 高山寺



高山寺からの眺望





B-11 岩脇寺



B-12 富貴寺



B-13 木造仮面



B-14 智恩寺



B-15 春日神社





B-16 木造太郎天立像



B-17 長安寺



B-18 鬼城耶馬



災払鬼

荒鬼

荒鬼  
(古面)

鬼が棲む伝承のある穴(鬼城)

B-19 天念寺



荒鬼



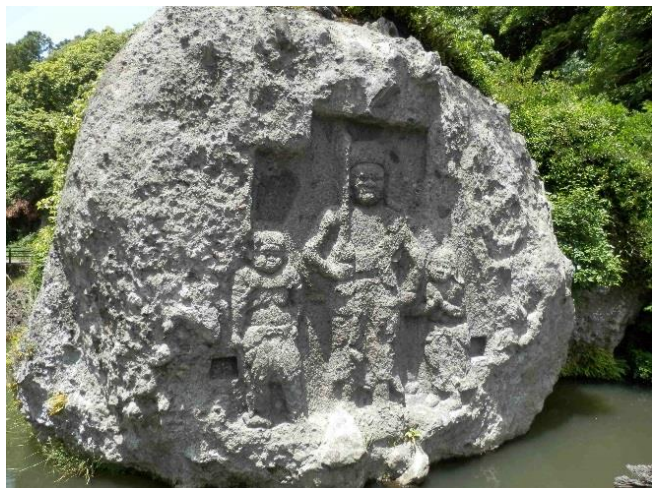
災払鬼

修正鬼会が行われる  
天念寺講堂



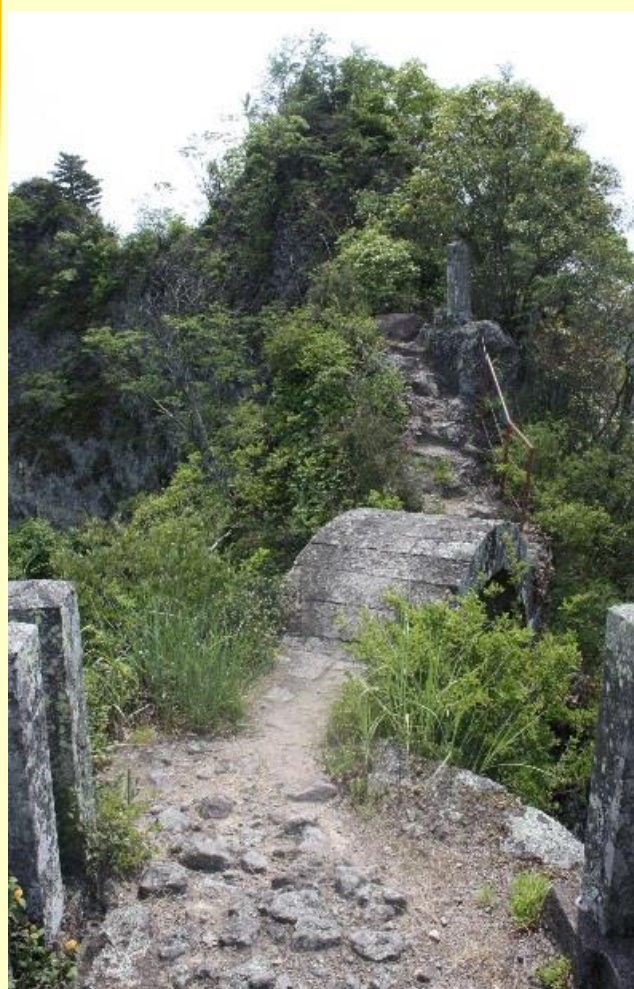


B-21 川中不動



暴れ川を鎮めるために彫られたとされる不動明王

B-22 天念寺耶馬・無明橋

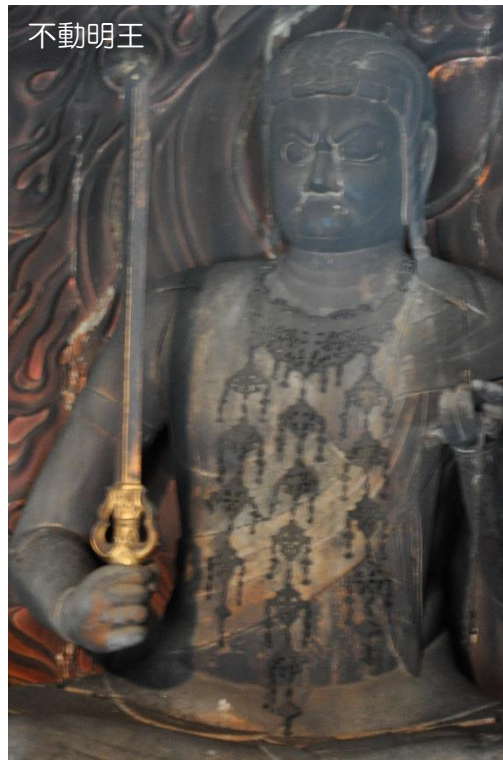


天念寺の奥に広がる岩峰群





B-23 無動寺



荒鬼

荒鬼

荒鬼

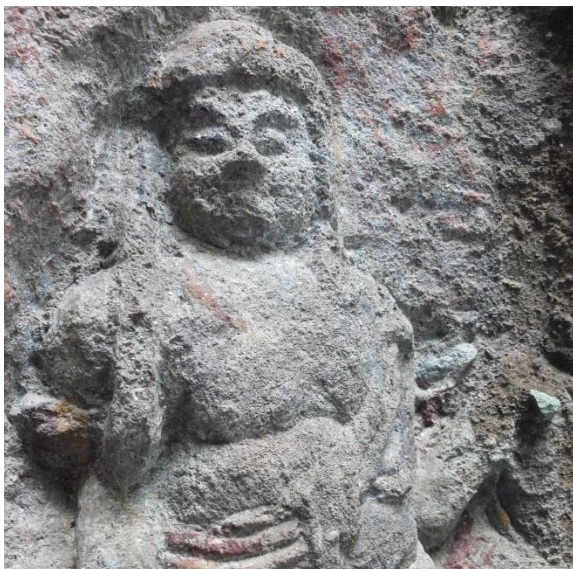
B-24 無動寺耶馬



B-26 応暦寺



B-25 福真磨崖仏



災払鬼



荒鬼

奥ノ院の岩屋





B-27 真玉湯原の温泉



災払鬼



荒鬼

B-28 六郷山夷岩屋の寺社境内



霊仙寺

B-29 中山仙境（夷谷）



かつて「大魔所」と呼ばれた岩峰群

B-30 鬼ヶ城



B-31 鬼の敷き水





K-1 大不動岩屋



K-2 鬼塚古墳



K-3 千燈寺



荒鬼

荒鬼

K-4 旧千燈寺



K-6 五辻不動



K-5 旧千燈寺五輪塔群





K-7 ケベス祭り



K-8 赤根温泉



奥ノ院



K-9 岩戸寺



K-10 岩戸寺修正鬼会

鳥居をくぐり鬼が登場



鬼と酒を酌み交わす





K-11 岩戸集落の鬼の膳



人々は鬼を恐れたりしない



K-12 文殊仙寺



災払鬼

荒鬼

鎮メ鬼

奥ノ院

K-13 木造鬼大師像



K-14 成仏寺



災払鬼

荒鬼

鎮メ鬼

鎮メ鬼古面



K-15 成仏寺修正鬼会



K-16 神宮寺



災払鬼



荒鬼



鎮メ鬼

K-17 行入寺



災払鬼



荒鬼



鎮メ鬼



K-18 飯塚遺跡出土木簡



K-19 丸小野寺



K-20 丸小野寺子供鬼会



災払鬼

荒鬼

鎮メ鬼



子供鬼会面



子供鬼会面

K-21 萱島酒造





K-22 宝命寺



荒鬼

荒鬼

荒鬼

K-23 瑠璃光寺



荒鬼

荒鬼

災払鬼

荒鬼

鎮メ鬼

K-24 両子寺



荒鬼

荒鬼

荒鬼

荒鬼

荒鬼



K-25 鬼橋



K-26 鬼の背割り



共-1 修正鬼会



共-2 鬼の目覚まし (Oni's Awakening)





共-3 鬼会面



共-4 七島藺



共-5 峯入り



共-6 六郷満山の峯道





## 日本遺産を通じた地域活性化計画

(1) 将来像 (ビジョン)	
Vision1	日本遺産を活用した観光の受入態勢がぐにさきDMOを中心に確立しており、各寺院や拠点で「ぐにさきの鬼」の文化に触れることができる。
Vision2	国内の人々が、里に幸せを届ける「ぐにさきの鬼」を知っている。 ” <b>ONI</b> ( <i>not</i> <i>DEMON</i> ) ” という言葉が世界に羽ばたいている。
Vision3	ぐにさきに展開する鬼の文化を素材に、豊後高田・国東市の交流が密になり、民間・行政がたすけあい、エリア全体が持続可能な社会として、未来に引き継がれる準備ができています。
(2) 地域活性化のための取組の概要	
<b>①日本遺産の認定を自立的・継続的に活用できる組織作り</b> 2市で組織した「六郷満山日本遺産推進協議会（以降、協議会）」が、「日本遺産魅力発信推進事業」に関する業務をとりまとめる（詳細は（4）実施体制）。 現在、豊後高田・国東両市は、大分県等と共同で「六郷満山開山1300周年誘客キャンペーン実行委員会」を組織し（平成27年度～）、六郷満山開山から1300年にあたる2018年（平成29～30年度）に多数のイベント等を実施・計画している。当実行委員会は日本版DMOには認定されていないが、交通会社と連携した旅行商品を開発したり、宿泊・飲食などのPRもあわせて行っている。ただし、当実行委員会は平成30年度をもって解散してしまう。 この実行委員会の取組を活用する組織として「ぐにさきDMO」を立ち上げ、日本遺産を軸に観光・交通・宿泊・飲食・商工業との連携を図る組織を作っていく。（4）で後述する誘客促進部会・魅力づくり部会の業務（観光客の動向調査、商品開発のための情報共有、ピクトグラム等の管理）を、民間主導で行えるように3年かけて徐々に切り離し、「ぐにさきDMO」としての独立を目指す。	
<b>②旅行者の嗜好性の分析、文化財の価値付け調査の推進</b> 現在は「寺院巡り」としてシニア層等を中心に誘客しているが、旅行者の嗜好性を再度分析することで、日本遺産のストーリーを中心に若者・外国人旅行者の興味を惹く素材（文化財や景観など）を特定し、新たな顧客を対象にした観光を展開することも可能になると考える。 また、エリアの観光振興に有効な文化財として、「名勝」の新規指定に向けた取組を推進する。文化庁の調査報告書をもとに、平成29年10月には「天念寺耶馬及び無動寺耶馬」が名勝に指定され、平成30年1月には「中山仙境（夷谷）」「文殊耶馬」の意見具申を行った。名勝の取組は今後も継続し、岩峰の美観を巡る「国東半島固有の寺院巡り」として積極的に活用し、観光客の回遊性を高める。これらの取組で得られた情報はぐにさきDMOの各組織で共有し、新鮮かつ多様な旅行商品・体験メニューの開発などに役立てる。	
<b>③日本遺産を活かすための商品開発</b> ②で特定された情報をもとに「旅行商品の開発」「宿泊・飲食・商工業など各分野での新商品の開発」を推進する。 外国人旅行者に対する旅行商品等については、外国人留学生（APU・別府大との連携。大分県は人口当たりの留学生の人数が全国有数）によるモニターツアーによって検証も実施する。 エリア内の産品を「鬼の幸」に特定し、ピクトグラム等を利用した商品のPRを実施することで、各分野の商品と日本遺産のストーリーを紐付け、地域の特性を活かしたマーケットの形成を目指す。農林水産部門の取組については、世界農業遺産関連の動きも活発であるため（天然うなぎの調査、七島蘭ブランド化等）、関連する官民各団体と調整・協力をしながら、商品開発に臨む。これらの取組により、観光客の目を惹くメニューをエリア全体で押し出し、観光消費額の向上が実現する。	
<b>④日本遺産を活かすための受入体制の整備</b> 現地で日本遺産の内容について理解しやすいよう説明看板・説明アプリの整備、多言語版デジタルパンフレットの作成などを行う。エリア内の全ての寺で鬼会面の設置を行い、鬼会面の解説をキャプションでも行う。 岩戸集落の空き家等を利用して実際に鬼が訪ねてくる体験ができる施設を整備、無明橋などの危険箇所の視点のVR化等によって、従来の観光では体験できなかった文化に触れるための受入体制も整備する。 日本遺産の内容に関するガイドの育成・活用にも取り組む。テキストの作成、講座・ワークショップ、試験等の運営は当面は協議会が運営するが、自主組織「ガイドの鬼岩屋（仮称）」を立ち上げて、協議会と共同でガイド育成・情報共有などの事務にあたる。 ハード・ソフト両面でしっかりと受入態勢をつくることで、観光客がぐにさきの文化を深く体験でき、理解度・満足度の向上が実現する。	
<b>⑤日本遺産ストーリーを活用した「ぐにさき」エリアへの誘客強化</b> ①の組織作り、②の調査、③の商品開発、④の受入態勢整備を通じて集められた素材を使って日本遺産を活用した誘客を実施する。宿泊・飲食・商工業に関する商品を売り出す取組は多岐に及ぶため、「誘客促進グループ（後にぐにさきDMO）」主体で、売り出すべき情報を精査する。 PRの方法として、特設ホームページの開設や、テレビ番組・雑誌記事の制作委託、ノベルティの作成等を実施する。また、両市にゆかりの企業（キャノン・ヤクルトヘルスフーズ）や、「ぐにさき」のイメージを利用する企業（モンテローザ、リンガーハット）などのタイアップにより、全国的なPRを展開し、観光客の増加を図る。	
<b>⑥地域継承の担い手の誘致・育成</b> ぐにさきエリアはその全域が過疎地域であり、文化財が伝わる集落にも限界集落化が進む場所も多い。エリアでは移住者の受け入れに力を入れ、「住みたい田舎」としてのブランドを確立させようとしている。 日本遺産のストーリーをもとに、小中学生向けの出前講座・バス研修などを実施し、地区の伝統文化に触れるキッカケづくりを行い、「戻ってきたい町」を演出する他、移住者向けの日本遺産バスツアーも実施し「住んでみたい町」と思わせる取組を推進する。これらにより、人が人を呼び込む仕組みづくりが可能と考える。 また、何かに秀でた能力を持つ人を「鬼」と呼ぶことから、飲食・商工業・ガイドなどの「鬼」を特定・PR・育成を強化し、人材バンクとして役立てる（例：蕎麦打ちの指導者を「蕎麦打ちの鬼」として紹介するなど）。	
<b>⑦日本固有の優れた文化「鬼」の発信</b> 「鬼」や、それにまつわる文化は、日本固有のすばらしい伝統である。ぐにさきエリアには様々な性格・表情の鬼が存在し、日本の鬼文化の奥深さを知るための恰好の素材である。「ぐにさきの鬼」を全世界に発信し、知名度の向上を図る。 海外に向けても、鬼文化を発信していく。内容を深く理解した多言語ガイドを育成し、デジタルコンテンツなどで普及啓発を図る。クールジャパンの観点から、鬼（的な存在）が登場するマンガ・アニメなどの要素と掛け合わせる事業も考えたい。 これらの事業を成熟させることで、2019年のラグビーワールドカップ（大分県でも開催）、2020年の東京オリンピックにおいて、日本のすぐれた文化の1つとして「ぐにさきの鬼」を発信することができる。	



<b>（３）自立的・継続的な取組</b>									
<p>日本遺産の認定による今回のくにさきの取組を、自立的・継続的に実施していくため、くにさきDMOは「資金づくり」「人づくり」の仕組みを成熟させる取組を行い、くにさきの民間団体が日本遺産を活用して、確かな利益を生む活動を自ら実施できるようにする。</p> <p><b>【資金づくりの方策】</b></p> <p><b>①ピクトグラム利用料</b> 協議会が作成・管理する鬼面のピクトグラムを利用した「協賛商品」より、売上の一部を収集する（1%程度）。</p> <p><b>②クラウドファンディング</b> 寄付金の目的をあらかじめ示す「クラウドファンディングの方式」により資金を収集する。一般的な「購入型」でも実施するが、豊後高田・国東両市はすでに別のクラウドファンディングを実施しているため、独自の取組として「おにぎりクラウドファンディング（仮称：エリア内でおにぎりを購入すると1個あたり1円が寄付されるシステム）」を組織し、幅広い年代・観光客等にも手軽にクラウドファンディングに参加してもらう取組を行う。</p> <p><b>③開発商品による販売利益</b> 日本遺産関連事業で多くの商品開発を行い、その販売利益を協議会の資金とする。日本遺産魅力発信事業やその他の事業で開発する御朱印帳・ガチャガチャ・ガイドブック（国東半島青空博物館図録）などをベースに独自に資金を稼ぐ体制をつくる。</p> <p><b>④文化財拝観料等の一部</b> 拝観料・入館料を収納する寺社・展示施設等については、その1%を協議会に納めてもらう仕組みをつくる。</p> <p><b>【人づくりの方策】</b></p> <p><b>①リーダー育成</b> 3年後に協議会・連絡会議の組織を「くにさきDMO」として独立させる際、民間主導の団体としての運営に切り替わるようにする。取組全体のリーダー及び各ワーキンググループ・業種毎のリーダーを決め、徐々に民間で自立して取り組める内容を増やしていく。</p> <p><b>②ガイド育成・人材バンク運営</b> 日本遺産の認定内容を観光客等に正しく伝えるためにはガイド（多言語ガイドも含む）の育成は不可欠である。大分県ではAPUなどにより留学生が多く、留学生を交えたワークショップ等を重ねながら多言語ガイドの育成にも取り組む。ガイド以外にも商工業に関わる人々を「〇〇の鬼」に特定し、住民に多様な活躍の場を設けることで地域活性化を推進する。</p> <p><b>③未来を担う次世代づくり</b> 地元住民や小中学生向けの学習プログラムを実施することで、地域の伝統文化や文化財に愛着を持ってもらう。また、定住対策とも連携して、市外出身の方にもくにさきの文化に触れてもらう。これら多様なプログラムにより、くにさきの日本遺産を未来へ引き継ぐ取組の協力者を育成する。</p>									
<b>（４）実施体制</b>									
<p>○<b>協議会名</b>：六郷満山日本遺産推進協議会</p> <p>○<b>構成団体</b>：豊後高田市（商工観光課・教育庁文化財室）、国東市（観光課・活力創生課・文化財課） 豊後高田市観光協会、国東市観光協会、豊後高田商工会議所、西国東商工会、国東市商工会 豊後高田市文化財保護審議会、国東市文化財調査委員会、六郷満山会</p> <p>○<b>下部組織</b>：作業部会（豊後高田・国東両市の関係各課【観光・商工・文化財・農政・地域活性化の部局】の連携により、協議会運営および日本遺産魅力発信事業の推進を行う。）</p> <p>○<b>連絡会議</b>：誘客促進グループ（観光、旅行、交通、寺院関係者、ガイド関係者） 魅力づくりグループ（商工、飲食、農林漁業、宿泊、寺院関係者、地域関係者、ガイド関係者）</p> <p>○<b>プロジェクトリーダー</b>： （認定当初は普及啓発・組織作り・各事業のキックオフが必要なため）豊後高田市文化財室長 DMOとしての理念・方針を共有し、民間組織のリーダーへ切替を行う（2名程度を想定）。</p> <p>六郷満山日本遺産推進協議会は、官民共同で日本遺産認定ストーリーをテーマにした地域活性化を促進する協議会である。「調査結果の共有」「ピクトグラムの管理」「商品開発等に関する提起」など、事業全体の統括を行う。補助金を使った事業実施期間において、事務処理は作業部会が行い、事業内容の詳細な検討に関しては、必要に応じてワーキンググループのリーダーを集めた連絡会議を開催し、より効果の高い実施ができるようにする。 ワーキンググループとして、誘客促進グループ（PR、旅行商品開発、二次交通対策などを担当）・魅力作りグループ（商品開発、受入態勢強化などを担当）を組織し、各業界よりグループリーダーを選定する。</p> <p><b>3年後には、協議会・連絡会議の組織を改変し、「くにさきDMO」として独立を目指す。</b>これによって豊後高田・国東両市は協議会の運営からは外れ、エリア内外の動向を踏まえた調整等を行うオブザーバーとなり、民間主導の団体としての運営に切り替わるようにする。</p>									
<b>（５）地域活性化計画における目標と期待される効果</b>					<b>定量的評価：</b>				
<b>期待される効果：</b>					別紙①のとおり				
					日本遺産のストーリーを通じて、「六郷満山の鬼」がくにさきエリアの素晴らしい文化であることを、エリアの内外に発信することによって、国内外からの観光客の増加、エリアブランドの確立による各分野企業の成長・発展が見込める。				
					日本遺産を通じて、小中学生や市民の地域に対する愛着が高まり、他者に自慢できる郷土づくりの担い手として、次なる企画・景観の維持といった自発的效果を多数生む。				
日本遺産での観光振興を現場レベルで推進する「くにさきDMO」は、エリアの魅力を再発見し、エリアの為に活かしていく体制へと繋がる。									
<b>（６）日本遺産魅力発信推進事業</b>					別紙②のとおり				
<b>補助金額：</b>		<b>平成30年度：</b>		42,096千円		<b>平成31年度：</b>		21,000千円	
						<b>平成32年度：</b>		10,040千円	
<b>（７）その他事業</b>					別紙③のとおり				



## (5) 地域活性化計画における目標と期待される効果

設定目標Ⅰ:	日本遺産を活用した集客・活性化			
計画評価指標:	観光客入込み数 (具体的な指標は次のとおり)			
具体的な指標:	六郷満山寺院への観光客数			
目標値:	平成 29 年度	262,000 人	⇒	平成 35 年度 327,500 人
設定根拠:	【設定根拠】 六郷満山寺院は、熊本・大分地震 (H28)、九州北部豪雨 (H29) において、被害こそ少なかったものの、観光客は大幅に減り (2 割減/年)、観光業で大きな打撃を受けている。5 年間ほどで離れた観光客を取り戻し震災前の水準に戻すには、年間 5 % 程度 (13,100 人/年) の増加を 5 年間安定して増加させることを目指す必要がある。			
設定目標Ⅱ:	日本遺産を核としたコミュニティの再生・活性化			
計画評価指標:	地域の文化に誇りを感じる住民の割合 (具体的な指標は次のとおり)			
具体的な指標:	住民意識調査における市の自慢を訪ねる質問で「自然・文化財が優れている」を選ぶ住民の割合			
目標値:	平成 28 年度	51.3 %	⇒	平成 35 年度 57.3 %
設定根拠:	平成28年度の調査に対し、1%/年の増加率で設定 (同じ方法で調査を実施する)。			
設定目標Ⅱ:	日本遺産を核としたコミュニティの再生・活性化			
計画評価指標:	小・中学生における日本遺産の認知度 (具体的な指標は次のとおり)			
具体的な指標:	エリア内の小学校4年生～中学校3年生の日本遺産認定ストーリーの認知度			
目標値:	平成 29 年度	0 %	⇒	平成 35 年度 100 %
設定根拠:	小学校高学年以上の児童生徒全員を対象に事業を実施する。			
設定目標Ⅱ:	日本遺産を核としたコミュニティの再生・活性化			
計画評価指標:	その他 (具体的な指標は次のとおり)			
具体的な指標:	鬼会面を公開・活用する寺院			
目標値:	平成 29 年度	3 ケ寺	⇒	平成 35 年度 19 ケ寺
設定根拠:	関連する全寺院において、鬼会面の公開活用事業を展開する (実物・レプリカ・ARの三段階)。			
設定目標Ⅲ:	日本遺産に関する取組を行うための持続可能な体制の維持・確立			
計画評価指標:	日本遺産のための寄付額 (具体的な指標は次のとおり)			
具体的な指標:	協議会に集まる資金額 (①ピクトグラム利用料、②クラウドファンディング、③開発した商品販売の利益、④拝観料収入の一部)			
目標値:	平成 30 年度	900,000 円	⇒	平成 35 年度 1,580,000 円
設定根拠:	【設定根拠】 ① 20,000円 [H30]→ 100,000円 [H35] 1%の利用料で想定。年間1000万円規模を目指す。 ②100,000円 [H30]→ 300,000円 [H35] 1口5千円に加え、おにぎりCF、購入型ふるさと納税。 ③100,000円 [H30]→ 200,000円 [H35] 朱印帳・カト・ブック・ハルティ・ガチャ・チャなど。 ④780,000円 [H30]→ 980,000円 [H35] 拝観料の1%を想定。			
設定目標Ⅲ:	日本遺産に関する取組を行うための持続可能な体制の維持・確立			
計画評価指標:	日本遺産への協力者数 (具体的な指標は次のとおり)			
具体的な指標:	くにさきの「鬼」に認定された人数 (ガイド、商工業など)			
目標値:	平成 30 年度	30 人	⇒	平成 35 年度 150 人
設定根拠:	年間30人ペースで特定を行う。			
設定目標Ⅲ:	日本遺産に関する取組を行うための持続可能な体制の維持・確立			
計画評価指標:	日本遺産関連で開発された商品・サービス数 (具体的な指標は次のとおり)			
具体的な指標:	協議会及び協賛企業の商品開発・取組数			
目標値:	平成 30 年度	5 個	⇒	平成 35 年度 20 個
設定根拠:	協議会・グループに参加の民間団体の数より目標を設定。 商品開発、飲食・宿泊施設整備、ガイド、教育活動、ボランティア活動などを特定。			

※黄色で着色したセルの内容は変更しないでください。

※目標Ⅰ～Ⅳを複数設定する場合は、設定目標～設定根拠までをコピーして欄を増やしてください。



## （6）日本遺産魅力発信推進事業

事業①：		日本遺産認定エリアとしての「くにさき」の日本人観光客の嗜好性に関わる調査				
事業区分：	調査研究		事業期間：	平成 30 年度 ～ 平成 31 年度		
補助金額：	平成30年度：	2,864千円	平成31年度：	2,000千円	平成32年度：	0千円
(積算)	調査・提案委託一式：2,000千円 報告書印刷製本：864千円		モニターツアー(バス)：200千円×10回			
事業概要：	認定ストーリー・関連文化財に関する日本人観光客の嗜好性の分析・旅行商品の開発を行う。 平成30年度に、嗜好性調査及び旅行商品案の提案に関する委託を行い、それぞれのターゲット（年齢層・性別）・行動（滞在時間・満足度・消費量）の分析を行う。この調査で得た情報は、各ワーキンググループや連絡会議の基礎データとするため、関係団体等には配布する。 平成31年度にはモニターツアーを実施し、旅行商品案の検証を行う。得られたデータは関係団体等に公開し、誘客や受入態勢の整備に役立ててもらふ。モニターツアーは補助事業が終了しても自主事業として継続し、「くにさきDMO」成立後はDMOに業務を移管する。					
評価指標区分：	嗜好性調査を踏まえた商品開発数				(具体的な指標は次のとおり)	
具体的な指標：	国内向け日本遺産関連の旅行商品数					
目標値：	平成 29 年度	0 個	⇒	平成 35 年度	20 個	
事業②：		インバウンド誘客 受入態勢確立事業				
事業区分：	人材育成		事業期間：	平成 30 年度 ～ 平成 31 年度		
補助金額：	平成30年度：	2,000千円	平成31年度：	4,000千円	平成32年度：	2,000千円
(積算)	調査・提案委託一式：2,000千円		モニターツアー(バス・通訳)400千円×5回 WEBパンフ作成一式：2,000千円		多言語ガイド育成ワークショップ等 ：2,000千円	
事業概要：	個人観光客向け、ウェブを利用した情報発信の方法として、WEBパンフレットを作成する。大分県に多い外国人留学生（人口あたりの留学生数は全国トップ）を活用した事業を展開する。平成31年度には大分県でもラグビーワールドカップが開催されるため、それまでに外国人観光客が国東半島の情報を得て、多くのインバウンド誘客が成功できるように取り組みたい。 平成30年度には、APU・別府大学と協力して、留学生・訪日客におけるニーズ調査し、ツアーコースの提案まで行う。 平成31年度には、得られたデータを利用してモニターツアーを実施する(多言語ガイドの候補生の案内による)。モニターツアーで検証された内容を元に、多言語版のWEBパンフレットを作成する。その後、必要に応じてパンフレットは自主事業として製本も行う。 平成32年度には、多言語ガイドの取組を継続させるため、必要な情報等についてまとめるワークショップ等を開催する（留学生をガイドとするため、卒業後も新たなガイド候補生を見つけるための組織作りも含む）。					
評価指標区分：	ガイド利用者数				(具体的な指標は次のとおり)	
具体的な指標：	多言語ガイド利用者数					
目標値：	平成 29 年度	0 人	⇒	平成 35 年度	300 人	
事業③：		「鬼の幸」ブランド化のための調査事業				
事業区分：	調査研究		事業期間：	平成 30 年度 ～ 平成 31 年度		
補助金額：	平成30年度：	2,000千円	平成31年度：	2,000千円	平成32年度：	0千円
(積算)	調査研究一式：2,000千円		メニュー開発：2,000千円			
事業概要：	国東半島の自然・風土が生み出した農林水産物を「鬼の幸」と位置づけて発信するための商品開発・マーケティング方法に係る調査を実施する。 現段階でも名産とされる、米（日本酒を含む）、シイタケ、ソバ、ウナギ、タチウオ、ワタリガニ、ボタンボウフウ、シットウイ、鬼灯（ホオズキ）などを中心に組み込むほか、エリアの美食として活用できる産品をブランドに位置づける。また、鬼が付く食品（「鬼味噌」「おにぎり」など）、鬼と親和性の高い食べ物（「豆（国東半島は西日本最大の落花生の産地、またミトリ豆という大分県で多く栽培される豆もある）」など）を活用したい。					
評価指標区分：	嗜好性調査を踏まえた商品開発数				(具体的な指標は次のとおり)	
具体的な指標：	修正鬼会・六郷満山に関する商品数					
目標値：	平成 29 年度	3 個	⇒	平成 35 年度	25 個	



事業④：		おにぎりクラウドファンディング応援 おにぎりコンテスト開催事業					
事業区分：		普及啓発		事業期間：		平成 30 年度 ～ 平成 30 年度	
補助金額：		平成30年度： 2,000千円		平成31年度： 0千円		平成32年度： 0千円	
(積算)		おにぎり公募関係：2,000千円					
事業概要：		通常のクラウドファンディングにあわせて、「エリア内でおにぎりを購入した際に1円募金されるシステム（おにぎりクラウドファンディング）」を創設する。「おに（ぎり）」の駄洒落であるが、おにぎりを利用する最大の“ねらい”は、より多くの人に販売者・購入者として協力してもらえる点にある。おにぎりを素材に老若男女・住民観光客問わず、気軽に寄附に参加してもらえる環境をつくりあげる。その広報・運営については協議会の自主事業で実施する。 日本遺産魅力発信事業では、「おにぎりコンテスト」を実施する（コンテストに係る情報発信・審査員謝礼等を計上）。市内小中学校とも連携し、おにぎりを通じて日本遺産の普及啓発にも繋がると考えている。優秀作品は市内各店舗で販売され、新商品の開発（おにぎりの具など）も同時に進行させる。					
評価指標区分：		その他				(具体的な指標は次のとおり)	
具体的な指標：		おにぎりクラウドファンディングでの集金額					
目標値：		平成 29 年度 30,000 円 ⇒ 平成 35 年度 90,000 円					
事業⑤：		日本遺産認定記念 御朱印帳 と 鬼のピクトグラムを利用した御朱印の開発事業					
事業区分：		公開活用のための整備		事業期間：		平成 30 年度 ～ 平成 30 年度	
補助金額：		平成30年度： 3,000千円		平成31年度： 0千円		平成32年度： 0千円	
(積算)		御朱印帳デザイン:1,000千円 朱印デザイン・判子作成:2,000千円					
事業概要：		近年、寺院巡りの観光において、御朱印集めがブームとなっている。六郷満山においても、御朱印帳を制作しているが、黒地にシールを貼ったシンプルなデザインで、地域の魅力を発信できる内容にはなっていない。御朱印帳を制作し販売することで、自主費用を得ることができただけでなく、エリア内の回遊性も高めることが期待できる。日本遺産魅力発信事業では御朱印帳のデザインまでを行い、自主事業で製本して販売する。 また、御朱印自体も開発する。鬼のピクトグラムを改良し、それらをあしらった朱印（判子）を作成して捺すようにする。鬼自体をお参りの対象にしてもよいが、仁開菩薩（六郷満山の開基）や、鬼大師、猿田彦大神など、地域性のある御朱印も寺社からの提案によって開発する。					
評価指標区分：		その他				(具体的な指標は次のとおり)	
具体的な指標：		鬼のピクトグラムを利用した御朱印開発数					
目標値：		平成 29 年度 0 個 ⇒ 平成 35 年度 19 個					
事業⑥：		峯入りの絶景を安全に体感できるVRソフト作成事業					
事業区分：		情報発信		事業期間：		平成 30 年度 ～ 平成 30 年度	
補助金額：		平成30年度： 7,500千円		平成31年度：		平成32年度：	
(積算)		VR体験装置作成委託：5,500千円 VRマップ作成委託：2,000千円					
事業概要：		VRの技術により、峯入りの危険箇所にある絶景を再現して、観光客に安全に峯入りを体験してもらう。 ①②の無明橋については、既に多くの観光客が訪れる、国東半島に特徴づけられる場所であり、VR化すれば確実に効果が得られると考える。③は比較的多くの場所で安価に実施できるため多数の場所でソフト化を試みる。  ①天念寺無明橋（豊後高田市長岩屋、幅1.2m×長さ5m）を鬼会の里歴史資料館に設置し、その上に登ってヘッドマウントディスプレイを付ければ、無明橋上の景色を体験できる。 ②中山仙境無明橋（豊後高田市夷、幅50cm×長さ4m）を夷谷温泉に設置し同様の装置を準備する。 ③エリア内の峰上の風景の360度ビューのデータを作成し、グーグルMAPにアップロードして、ウェブ上で景色を楽しむことができるようにする。現段階での候補として、五辻不動（危険箇所）、文殊耶馬（危険箇所）、旧千燈寺墓地（1000以上の中世墓塔が集まる）、富貴寺大堂（大分県立歴史博物館内に、堂内の極彩色の再現がある）、田染荘小崎（四季の色合いを楽しめる）などが考えられる。					
評価指標区分：		コンテンツ制作数				(具体的な指標は次のとおり)	
具体的な指標：		VR体験装置設置箇所、360度ビュー公開箇所					
目標値：		平成 30 年度 8 箇所 ⇒ 平成 35 年度 20 箇所					



事業⑦：	鬼が出る日本遺産解説アプリ作成事業（ＡＲ）											
事業区分：	情報発信				事業期間：	平成	31	年度	～	平成	31	年度
補助金額：	平成30年度：		0千円		平成31年度：		2,500千円		平成32年度：			
（積算）			作成委託一式：2,500千円									
事業概要：	ＡＲの技術により、スマートフォンのアプリを起動すると、寺院・岩屋などが映る画面上に鬼が登場し、寺院の歴史や日本遺産について解説するアプリを作成する。修正鬼会は1年に2度しか見れないが、講堂に鬼が舞う姿を合成することで、いつでも現地で鬼を見ることができる。											
評価指標区分：	コンテンツダウンロード数（掲載ＨＰや動画共有サイトでの再生回数等）								（具体的な指標は次のとおり）			
具体的な指標：	アプリのダウンロード数											
目標値：	平成	30	年度	300	ＤＬ	⇒	平成	35	年度	3,000	ＤＬ	
事業⑧：	日本遺産特設ホームページ作成事業											
事業区分：	情報発信				事業期間：	平成	30	年度	～	平成	30	年度
補助金額：	平成30年度：		3,000千円		平成31年度：		0千円		平成32年度：			
（積算）			HP構築：3,000千円									
事業概要：	日本遺産の認定内容・構成要素、地域活性化事業、くにさきブランド製品などについて情報発信するためのホームページを作成する。各種事業で作成した動画・ウェブパンフレットなどを公開したり、日本遺産関連事業・地域活性化部会の活動等の情報公開も行う。 立ち上げは六郷満山日本遺産推進協議会が行うが、最終的な運営は「くにさきDMO」への移管を目指す。											
評価指標区分：	ホームページ閲覧数（ＰＶ数）								（具体的な指標は次のとおり）			
具体的な指標：	ホームページ閲覧数（年間）											
目標値：	平成	30	年度	20,000	アクセス	⇒	平成	35	年度	35,000	アクセス	
事業⑨：	修正鬼会の公開施設整備事業（公民館・空き家等を利用した鬼会体験施設整備）											
事業区分：	公開活用のための整備				事業期間：	平成	30	年度	～	平成	30	年度
補助金額：	平成30年度：		3,000千円		平成31年度：				平成32年度：			
（積算）			体験施設整備：3,000千円									
事業概要：	集落に出た鬼は一般宅を回るので、普通の観光客はその様子を見学しにくい。岩戸集落・成仏集落の公民館・空き家を利用して、観光客向けに開放する施設として活用する。これによって観光客も集落の人々の追体験が可能になる。具体的には家の調度品等の説明（仏壇と神棚が同じサイズで並ぶなど）、必要があればトイレ等の整備を実施する。											
評価指標区分：	施設への入込み数								（具体的な指標は次のとおり）			
具体的な指標：	体験施設の入込み数											
目標値：	平成	30	年度	20	人	⇒	平成	35	年度	20	人	
事業⑩：	雑誌特集記事等誘致事業											
事業区分：	情報発信				事業期間：	平成	31	年度	～	平成	31	年度
補助金額：	平成30年度：		0千円		平成31年度：		4,000千円		平成32年度：			
（積算）					記事作成委託一式：4,000千円							
事業概要：	認定ストーリー・文化財の情報発信の広報媒体として雑誌を採用する。 国東半島は飛行機で訪れやすく、機内誌「翼の王国（ＡＮＡ）」「ソラタネ（ＳＮＡ）」「ＳＫＹＷＡＲＤ（ＪＡＬ）」などに特集記事掲載を依頼するほか、「サライ」や「一個人」といった旅行関係の雑誌等へ依頼する。 auのCMで「鬼ちゃん」を演じる菅田将暉氏らの起用を試み、実際に鬼と友達になってもらうような旅路を歩んでもらいたい。											
評価指標区分：	コンテンツ制作数								（具体的な指標は次のとおり）			
具体的な指標：	制作した広報媒体数											
目標値：	平成	31	年度	5	個	⇒	平成	35	年度	15	個	



事業⑪：		日本遺産シンポジウム「日本全国から大集合！鬼祭り」開催事業				
事業区分：	普及啓発		事業期間：	平成 30 年度 ～ 平成 31 年度		
補助金額：	平成30年度：	1,400千円	平成31年度：	3,500千円	平成32年度：千円	
(積算)	報償・旅費一式：300千円 広告費用一式：1,100千円		報償・旅費一式：2,000千円 広告費用一式：1,500千円			
事業概要：	平成30年度は認定記念のシンポジウムを実施し、地域住民等に日本遺産の内容等について、広く普及させる必要がある。 平成31年度には、日本全国から鬼を集める「鬼祭り」を開催し、日本固有の優れた文化「鬼」について、普及啓発・情報発信するシンポジウムを行う。少なくとも10ヶ所の鬼を呼び、日本の文化の多様性について深く実感できる内容にしたい。					
評価指標区分：	日本遺産の認知度			(具体的な指標は次のとおり)		
具体的な指標：	エリア内住民における日本遺産認定の認知度（10代～に調査をした場合）					
目標値：	平成 30 年度	0 %	⇒	平成 35 年度	80 %	
事業⑫：		くにさきガイドの鬼 育成事業				
事業区分：	人材育成		事業期間：	平成 30 年度 ～ 平成 32 年度		
補助金額：	平成30年度：	1,364千円	平成31年度：	千円	平成32年度：540千円	
(積算)	バス借上：54千円×10回 テキスト印刷：864千円				バス借上：54千円×10回	
事業概要：	市民講座を開催し、応募者から日本遺産のストーリー・構成文化財について説明できるガイドを養成する。テキストを作成し、それに沿った講座・筆記テストを実施し、基準を超えた者を「くにさきガイドの鬼」に認定する。また、バスツアー式の講座（各市3回）を実施し、日本遺産に認定されたストーリー・文化財の現地研修も実施する。  ガイドには継続して勉強等をしてもらうため、自主組織「ガイドの鬼岩屋（仮）」を設立し、勉強会・情報共有などを実施する。自立のための動きの初年度として、運営費用を3年目に要求する。					
評価指標区分：	ガイド育成講座修了者の後年度活動者数			(具体的な指標は次のとおり)		
具体的な指標：	ガイド育成講座修了者の後年度活動者数					
目標値：	平成 30 年度	20 人	⇒	平成 35 年度	50 人	
事業⑬：		日本遺産小中学校出前講座				
事業区分：	普及啓発		事業期間：	平成 30 年度 ～ 平成 32 年度		
補助金額：	平成30年度：	108千円	平成31年度：	千円	平成32年度：千円	
(積算)	バス借上：54千円×2回					
事業概要：	小中学校向けの出前講座を実施し、日本遺産ストーリー及び構成要素についての認知度を高める。学校教育課の協力により、教育課程に位置づけ、社会科見学・調べ学習発表会などを実施する。					
評価指標区分：	日本遺産の認知度			(具体的な指標は次のとおり)		
具体的な指標：	市内小学校4年生～中学3年生の日本遺産の認知度					
目標値：	平成 29 年度	0 %	⇒	平成 35 年度	100 %	



事業⑭：		子ども版日本遺産ストーリー本の制作				
事業区分：		普及啓発		事業期間：	平成 30 年度 ～ 平成 32 年度	
補助金額：		平成30年度： 3,000千円		平成31年度：		平成32年度：
(積算)		制作費一式：3,000千円				
事業概要：		日本遺産のストーリーを子ども（日本史等を学んでいない小学校4～6年生がターゲット）でも分かりやすいように再編集し、より多くの児童に日本遺産に親しんでもらう。 本は学校に配置するほか、インターネットなどで公開する。				
評価指標区分：		日本遺産の認知度			(具体的な指標は次のとおり)	
具体的な指標：		市内小学校4年生～中学3年生の日本遺産の認知度				
目標値：		平成 30 年度 0 %		⇒ 平成 35 年度 100 %		
事業⑮：		日本遺産看板設置事業				
事業区分：		公開活用のための整備		事業期間：	平成 30 年度 ～ 平成 30 年度	
補助金額：		平成30年度： 3,000千円		平成31年度：		平成32年度：
(積算)		12ヶ所×250千円				
事業概要：		認定されたストーリーに関連する場所に設置する。 12箇所（熊野磨崖仏、富貴寺、天念寺、鬼城耶馬、夷地区、高山寺付近、旧千灯寺、岩戸寺、文殊仙寺、成仏寺、弥生のムラ（飯塚遺跡）、両子寺）に設置する予定。				
評価指標区分：		施設への入込み数			(具体的な指標は次のとおり)	
具体的な指標：		設置予定箇所の入込み客数（年間）				
目標値：		平成 30 年度 約300,000 人		⇒ 平成 35 年度 400,000 人		
事業⑯：		「鬼」の人材バンク活用事業				
事業区分：		情報発信		事業期間：	平成 30 年度 ～ 平成 32 年度	
補助金額：		平成30年度：		平成31年度： 千円		平成32年度： 3,000千円
(積算)						情報発信一式：3,000千円
事業概要：		何かに秀でた人間を「〇〇の鬼」と呼ぶ。「くにさき」エリアの鬼と呼ばれる人々の人材バンクを創出し、その技術を活かしたコンテンツを開発する。（例「蕎麦打ちの鬼による蕎麦打ち講座」「七島蘭の鬼たちの作品展」）				
評価指標区分：		コンテンツ制作数			(具体的な指標は次のとおり)	
具体的な指標：		「鬼」の人材による講座・企画の数				
目標値：		平成 29 年度 0 個		⇒ 平成 35 年度 (延べ) 30 個		
事業⑰：		くにさきガチャガチャ作成委託業務				
事業区分：		情報発信		事業期間：	平成 31 年度 ～ 平成 31 年度	
補助金額：		平成30年度：		平成31年度： 3,000千円		平成32年度：
(積算)				作成委託一式：3,000千円		
事業概要：		くにさきエリアの文化財のミニフィギュアを作成する。計上した3,000千円は開発費用及び情報発信費用に充て、型のライセンスを六郷満山日本遺産推進協議会が管理して自主事業で生産・販売等を行うものである。  【開発の流れ】 大分県立芸術文化短大等との連携事業により進める。同短大で開催するコンペティションによって学内外の生徒の作品の募集をし、その中でフィギュア原型を作成する。				
評価指標区分：		コンテンツ制作数			(具体的な指標は次のとおり)	
具体的な指標：		(自主費用で生産した) フィギュアの製造数				
目標値：		平成 31 年度 1,000 個		⇒ 平成 35 年度 延べ4,000 個		



事業⑱：		鬼会面展示施設整備事業				
事業区分：		公開活用のための整備		事業期間：		平成 30 年度 ～ 平成 30 年度
補助金額：		平成30年度：	3,000千円	平成31年度：		平成32年度：
(積算)		施設整備一式：3,000千円				
事業概要：		現在、六郷満山において常時鬼会面を公開している施設は7箇所（20面程度）にすぎず、100面近くあつて個性あふれる造形を活かしきれていない。鬼会面を所有する六郷満山の寺院を、現物の鬼会面をそのまま公開する施設・レプリカを公開する施設・ARアプリによって映像で公開する施設の3つに分類し、それぞれに必要な設備（ケース・キャプションなど）を整備する。				
評価指標区分：		その他			(具体的な指標は次のとおり)	
具体的な指標：		鬼会面を展示する施設				
目標値：		平成 29 年度 7 箇所 ⇒ 平成 35 年度 19 箇所				
事業⑲：		特別展示「修正鬼会」				
事業区分：		普及啓発		事業期間：		平成 32 年度 ～ 平成 32 年度
補助金額：		平成30年度：		平成31年度：		平成32年度：
(積算)						4,500千円
事業概要：		平成32年度には、国東市立弥生のムラ歴史民俗資料館において、日本遺産魅力発信事業の成果として、修正鬼会に関する企画展示も実施する。				
評価指標区分：		日本遺産の認知度			(具体的な指標は次のとおり)	
具体的な指標：		エリア内住民における日本遺産認定の認知度（10代～に調査をした場合）				
目標値：		平成 29 年度 0 % ⇒ 平成 35 年度 80 %				
事業⑳：		BS TBS「日本遺産」制作事業				
事業区分：		情報発信		事業期間：		平成 30 年度 ～ 平成 30 年度
補助金額：		平成30年度：	4,860千円	平成31年度：		平成32年度：
(積算)		制作一式：4,860千円				
事業概要：		BS TBSで放送されている番組「日本遺産」で放映するための映像作成を委託する。成果品の利用は自由であるため、イベントや制作した日本遺産特設HPなどで利用できる。				
評価指標区分：		コンテンツダウンロード数（掲載HPや動画共有サイトでの再生回数等）			(具体的な指標は次のとおり)	
具体的な指標：		エリア内住民における日本遺産認定の認知度（10代～に調査をした場合）				
目標値：		平成 29 年度 0 % ⇒ 平成 35 年度 80 %				

## (7) その他事業

事業①:	六郷満山開山1300周年記念誘客キャンペーン				
機関・団体:	文化庁以外の省庁	:	観光庁	事業期間:	平成 28 年度 ~ 平成 30 年度
事業概要:	2018年で開山1300周年を迎える六郷満山について、誘客のためのPR等の事業を実施する。平成30年度でキャンペーンは終了し、実行委員会も解散する。				
事業②:	六郷満山の遺跡・名勝地に関する文化財調査事業				
機関・団体:	文化庁	:	文化庁	事業期間:	平成 26 年度 ~ 平成 35 年度
事業概要:	平成26～27年度に実施された文化庁の名勝調査で対象となった場所について、個別調査等を実施して、名勝指定を目指す。平成29年度には天念寺耶馬及び無動寺耶馬（豊後高田市）が指定となり、平成29年度に中山仙境（豊後高田市）・文殊耶馬（国東市）の意見具申を行った。その後は、平成30年度に両子山（国東市）、31年度に旧千燈寺（国東市）の意見具申を目指す。 平成29～30年度において文化庁の補助事業で豊後高田市が調査する田染耶馬についても、補助事業終了後に個別調査を実施し、平成31年度から意見具申を目指す。 六郷満山の史跡指定に向けた取組を両市共同で実施する。現在県指定となっている長安寺・天念寺・夷岩屋（豊後高田市）、両子寺・文殊仙寺・岩戸寺・旧千燈寺（国東市）の意見具申を目指す。				
事業③:	史跡富貴寺境内保存整備事業				
機関・団体:	文化庁	:	文化庁	事業期間:	平成 29 年度 ~ 平成 34 年度
事業概要:	富貴寺本堂（江戸中期築で六郷満山最古の本堂建築）の解体修理を実施する。屋根を茅葺銅板に変更するため、修理後の景観が江戸時代に近づき、活用面でも期待できる。				
事業④:	史跡熊野磨崖仏保存整備事業				
機関・団体:	文化庁	:	文化庁	事業期間:	平成 29 年度 ~ 平成 33 年度
事業概要:	当該史跡の保存活用計画・整備計画を策定し、磨崖仏の恒久的保存に関する指針を立てる他、支障木等の除去等を行い、視界を確保する。				
事業⑤:	天念寺耶馬 修景事業				
機関・団体:	都道府県	:	大分県	事業期間:	平成 30 年度 ~ 平成 31 年度
事業概要:	天念寺耶馬上に生育する樹木等が大きくなったため、昭和初期の古写真等と対照させながら、支障木等の伐採を実施する。				
事業⑥:	名勝天念寺耶馬及び無動寺耶馬保存整備事業				
機関・団体:	文化庁	:	文化庁	事業期間:	平成 30 年度 ~ 平成 33 年度
事業概要:	当該名勝の保存活用計画・整備計画を策定し、耶馬景観の保存に関する方針を立てる。伝統的な視点場として「七郎ヶ迫五輪塔群」等の整備を行い、観光客向けの周遊ルートや視界の確保に努める。				
事業⑦:	豊後高田市認定文化遺産認定事業				
機関・団体:	市町村	:	豊後高田市（文化財室）	事業期間:	平成 28 年度 ~ 平成 年度
事業概要:	豊後高田市内の未指定文化財の内、観光・定住・地域活性化に活用できるものを中心に「文化遺産」に認定し、文化財に関するストーリーを作成して活用する。				
事業⑧:	文殊仙寺古参道保存整備事業				
機関・団体:	都道府県	:	大分県	事業期間:	平成 27 年度 ~ 平成 30 年度
事業概要:	文殊仙寺に残された絵図をもとに江戸時代の古参道を復元する。寺院や耶馬の視点場としても確保され、活用面でも期待できる。				
事業⑨:	文殊仙寺宿坊建設事業				
機関・団体:	自主事業	:	文殊仙寺	事業期間:	平成 30 年度 ~ 平成 30 年度
事業概要:	文殊仙寺が観光客のために2棟目の宿坊を建設する予定となっている。				
事業⑩:	ロングトレイルのためのゲストハウス開設事業				
機関・団体:	市町村	:	豊後高田市 (文化財室・商工観光課)	事業期間:	平成 未定 年度 ~ 平成 年度
事業概要:	ロングトレイル各コースの始点・終点にはそれぞれ宿泊施設等が整備されることが望ましく、近年でも並石ダムキャンプ場が復活（平成28年度）している。一部地区には宿泊施設が無く、古民家を改修してゲストハウスを開き、多様な観光客への受入体制をつくる。				



事業⑪：	文化財等を活用した過疎地域への移住促進事業（心いやす郷づくり事業）			
機関・団体：	文化庁以外の省庁	：	総務省	事業期間：平成 28 年度 ～ 平成 年度
事業概要：	豊後高田市では移住対策に力を入れており、特に田染地区をはじめとする過疎地域において、移住希望者向けに文化・文化財・景観等を体験してもらうバスツアー型の移住体験ツアーを実施し、空き家のマッチングとあわせた取組を実施している。 ⑦の豊後高田市認定文化遺産認定事業と連携して、古民家改修や利活用への方針策定などを実施する。			
事業⑫：	世界農業遺産関係での食に関する商品開発事業			
機関・団体：	民間団体	：	国東半島宇佐地域世界農業遺産推進協議会	事業期間：平成 25 年度 ～ 平成 年度
事業概要：	平成25年に国東半島宇佐地域が認定された世界農業遺産のシステムを利用して伝統的に営まれている農林水産業の産物の商品化が進められている。 両市に関わっては、農業では米（世界農業遺産米、ライスマイルクなど）、林業ではシイタケ、水産業ではタチウオなどの商品化・ブランド化が進み、今後は近年の研究で生産量の多さが判明した天然うなぎ等の商品化等を進めることになっている。			
事業⑬：	企業とのタイアップ事業による日本遺産PR事業			
機関・団体：	市町村	：	豊後高田市 国東市	事業期間：平成 28 年度 ～ 平成 年度
事業概要：	「くにさき」のイメージや特産品を活用する企業は少なくなく、中でも全国的に店舗を展開する浜かつ（黒米、リンガーハット系列）、キャノン（国東市に工場）、豊後高田どり酒場（鶏肉・ねぎ等、モンテローザ系列）、ヤクルトヘルスフーズ（ケール等）と連携し、自主制作のノベルティなどを設置・配布する。			
事業⑭：	日本遺産に係るパンフレット作成			
機関・団体：	自主事業	：	六郷満山日本遺産推進協議会	事業期間：平成 30 年度 ～ 平成 年度
事業概要：	認定ストーリー等に関する、一般観光客向けのパンフレットを作成し配布する。			
事業⑮：	国東半島青空博物館 通常展 図録作成			
機関・団体：	自主事業	：	六郷満山日本遺産推進協議会	事業期間：平成 30 年度 ～ 平成 年度
事業概要：	鬼の文化・六郷満山に関する文化財は、現地（各寺院）に本物があり、実際に文化財を見てほしい。その為、半島全体を青空博物館と捉え、通常見られる文化財の図録を作成・販売し、自主財源にする。 多言語にも対応させ、個人で来訪するインバウンドに対するガイド機能を持たせる。			
事業⑯：	おにぎりクラウドファンディング			
機関・団体：	自主事業	：	六郷満山日本遺産推進協議会	事業期間：平成 30 年度 ～ 平成 年度
事業概要：	エリア内で「おにぎり」を1つ購入すると1円寄付されるシステムをつくり、目標を設定してクラウドファンディングによる資金収集事業を行う。協議会では「国東半島でおにぎり食べて『鬼』を応援しよう！」というタイトルのポスターを作成し、協賛企業に配布したり、おにぎり販促イベント（日本遺産魅力発信事業のおにぎりコンテストなどと連動）を開催する。 「おにぎり」を素材とすることで、協賛企業やターゲットを広く設定でき、エリアを挙げての運動へと展開する。			
事業⑰：	（事業名を記載してください。）			
機関・団体：	（リストから選択してください。）	：	（具体的な機関）	事業期間：平成 年度 ～ 平成 年度
事業概要：				
事業⑱：	（事業名を記載してください。）			
機関・団体：	（リストから選択してください。）	：	（具体的な機関）	事業期間：平成 年度 ～ 平成 年度
事業概要：				
事業⑲：	（事業名を記載してください。）			
機関・団体：	（リストから選択してください。）	：	（具体的な機関）	事業期間：平成 年度 ～ 平成 年度
事業概要：				